

10 「道の駅いながわ」における農産物直売所の振興

1 農産物直売所の概要

「道の駅いながわ」内にある農産物直売所（農産物販売センター）は、2000年11月にオープンし、都市近郊という立地条件にも恵まれ、売上が年々伸びている（図）。多くの来客で、生産者の意欲も上がり、出荷組織であるJA兵庫六甲野菜部会も220名となった。しかし、開設当初は出荷される農産物の品質が悪く、冬場の農産物が極端に少ないなどの問題点が浮上し、それらの解消に向けて普及活動に取り組んだ。

2 普及活動の取組

普及活動にあたって、町・JA・道の駅との連携に配慮し、振興方策や年度計画の作成について共同歩調を取りながら推進してきた。

(1) 品質向上対策

当初は収穫遅れの品物を安価で販売するなど「安からう悪からう」の農産物が並ぶこともあった。そこで、出荷された農産物の品質向上を目的に、月2回、抜き打ちで野菜部会役員、JA、普及センターが販売前の検査を行った。指摘事項は、野菜部会通信に技術的な改善策や今後の技術対策を記載して、全会員に周知した。その結果、現在では月1回のJAと役員による検査において、指摘する事項もほとんどなくなっている。

また、一方では、初心者向けの一般的事項を網羅した農業講座をJAと開催していたが、現在は、野菜・花・果樹・加工の各コースを設け、新しい品目の導入や生産者の拡大・技術向上を目標に講座を開催している。特に、花では農業講座から発展して、花の出荷者で花研究会が発足し、技術向上や消費者の意向調査など、積極的な活動を展開している。

(2) 品目・出荷量向上対策

野菜では地元産比率が少ない時期に出荷できる品目の拡大に向け、JAと新たな振興作物を協議・決定し、栽培講習会を行った。今では、自然薯や赤ネギ、冬どりセットタマネギなどの商品が並ぶようになった。さらに、4月に出荷する超極早生のタマネギや

晩生品種の導入とその貯蔵など、出荷期間の延長にも取り組んでいる。

また、果樹については、栗が産地としてあるが、その他の果樹はほとんど出荷されない。そこで、町による果樹苗木の導入助成（10a以上作付、補助率3/4以内）を活用し、JAと柿やブドウなど9品目に絞って、導入の啓蒙と技術指導を行っている。

(3) 周年栽培の推進

直売所オープン前からハウス導入の推進を行ってきた。1997年から2001年までは県のレンタルハウス事業、2001年からは、町単独事業によるパイプハウスへの助成（補助率1/2以内）を活用した。ビニールハウスを導入した農家は、JAと普及センターで企画した各種研修会で技術向上を図った結果、66棟、15,000㎡を超えるまでになっている。

(4) ひょうご認証食品の拡大

消費者へ安全安心な農産物をPRするため、ひょうご認証食品の取得支援を行っている。

現在ではアイガモ米、ハウストマト、自然薯、原木しいたけ、乾燥しいたけなどの認証食品が販売されている。

3 今後の取組

特産加工品の開発と新規加工者の掘り起こし、冬期の農産物や施設花きの出荷量拡大、導入果樹の成園化等課題は多く、関係機関と連携し解決したい。

鎌田 雅志（宝塚農業改良普及センター）
（問い合わせ先 電話：0797-86-7661）

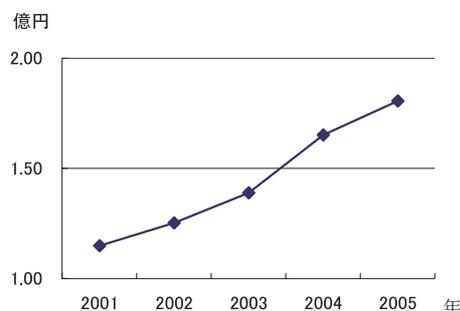


図 「道の駅いながわ」における農家販売金額

ひょうごの農林水産技術 No.149

平成19年1月1日（隔月刊）

兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）47-2400